



「木もれびの森に咲く草花」

キツネノマゴ(キツネノマゴ科 1年草)

「よさこいRANNBU！」でにぎわう古淵の駅前の人々と共演するかのようにミズヒキの赤い花が乱舞して、森の入口で歓迎してくれました。

特に心が和んだのは、散策路脇にそっと愛らしく咲いている「**キツネノマゴ**」でした。

まばらに枝分れた茎と葉には、短い毛が生え、10cm～40cm。葉は対生し、長楕円形で長さ2～5cm。枝先に穂状の花序をつけ、淡紅紫色の唇形の花が咲いていました。気をつけて見なければならぬほどのさりげない小さな花です。しかし、花の蜜は余程美味しいのか、色んな虫が吸蜜にくるそうです。確かに、“まご”って、ただただ可愛く人気ものですよね……(鳥飼 典子)



「木もれびの森の野鳥たち(4)」

秋の訪れは、モズの高鳴きから

秋、家のアンテナや高い木の枝でキイーキイキイとモズ独特の高鳴きを聞くことができます。繁殖期も終わり、モズは高鳴きして、秋から冬にかけてのなわばりを宣言しているのです。

食べ物が少なくなる季節、自分の食料を確保するため、なわばりにはメスも入れません。その範囲には「**はやにえ**」といって、バッタやトカゲなどの獲物を木の枝やとげに刺してあつたりします。

他の野鳥たちの食料も、虫がいなくなる秋から冬は木の実・草の実へと移行します。

繁殖を終え、南に渡っていくキビタキやセンダイムシクイたちが、栄養補給のため木もれびの森に立ち寄っていくのもこの季節。

そして冬鳥たちの到来も間近。ジョウビタキ・ツグミの便りも届くでしょう(瀬尾)。



「こもれびの森の樹(4)」

今回はミズキです。

みずきの森に呼びかわす こずえの鳥の朝のうた
しろがねの風さわやかに 明けゆく大野台小学校

大野台小学校の校歌の一番です。また校章はまわりをみずきの葉をデザイン化したものです。

大野台小学校の西側を東電の高圧線が大野台中学校の敷地をかすめ西大沼五丁目方面から麻溝台方面へ通っています、高圧線が住宅地、道路を過ぎ森に入ったところの高圧線の下一帯にミズキの木が群生しています。これは高圧線にとまった鳥により食べられた実が糞として排泄され運ばれたものです。

ミズキ(水木)はミズキ科ミズキ属で北海道から九州の山地に生える落葉高木、春先に枝を切ると樹液がしたたるのでついた名です。

幹に枝が一年ごとに輪生状につき階段状になるので樹形が美しい、特に5、6月に真っ白い花が段々に張り出した枝に咲くようすは独特です。

葉は楕円形、枝先に集まり互生し、裏は粉白緑色、全面に毛があります。

同科同属に**クマノミズキ**があります、三重県熊野地方ではじめて発見されたので名前の由来があります。ミズキとの違いは葉は対生し、幅が狭く先がとがり、同じ場所では花期がミズキより約一ヶ月遅く咲きます(林)。



上の左側はミズキ、右側はクマノミズキの花と葉の比較

右はクマノミズキの葉が枝から対生している様子 →



編集後記：

文字が小さいとの声が聞こえてきましたので、今回は大きくしてみました。如何でしょうか？ 御意見をお寄せください(中尾)。